

第3回 公民館のあり方検討委員会

日時：令和5年8月25日（金）14時～16時

場所：佐賀商工ビル7階共用大会議室

佐賀市地域振興部公民館支援課

次 第

1 開会

2 議事

(1) 佐賀市公民館の現況について

(2) 今後のあり方について

① 多様な活用について

② 使用料、減免について

3 閉会

次回会議：10月20日（金）14時00分～佐賀商工ビル

佐賀市公民館のあり方検討委員会 委員名簿

	所属等	役職	氏名
1	佐賀市自治会協議会	佐賀市自治会協議会会長	小城原 直
2	佐賀市自治会協議会	佐賀市自治会協議会副会長	福田 忠利
3	まちづくり協議会	巨勢まちづくり協議会会長	石井 孝嗣
4	佐賀市民生委員児童委員協議会	佐賀市民生委員・児童委員協議会副会長	木村 泰代
5	PTA 協議会	佐賀市 PTA 協議会副会長	中山 志穂
6	佐賀市子育てサークル連絡会	佐賀市子育てサークル連絡会相談役	吉村 純子
7	佐賀市小中学校校長会	佐賀市立赤松小学校校長	浅井 慎司
8	社会教育委員	佐賀市社会教育委員の会議委員長 西九州大学副学長	上野 景三
9	防災関係団体	佐賀県防災士会代表	溝上 良雄
10	障がい福祉団体	NPO 法人佐賀中部障がい者ふくし ネット理事長	福島 龍三郎
11	団体・企業向け研修実践者	株式会社アテント [®] 代表取締役	福成 有美
12	NPO	NPO 法人空家・空地活用 サポートSAGA副代表理事	内川 実佐子
13	地域連携事業実践者	くるめオンライン公民館館長 まちびと会社 visionAreal 共同代表	翁 昌史
14	地域連携事業実践者	株式会社佐賀銀行営業統括本部地域 支援部副部長	横尾 敏史
15	地域連携事業実践者	田島株式会社専務取締役	田島 みゆき
16	学識経験者	佐賀大学名誉教授	五十嵐 勉

検討委員会スケジュール（予定）

会議	日程	議題等
第1回	令和5年 6月 9日（金）	1 委員長及び副委員長の選任 2 公民館あり方検討委員会の概要 3 公民館を取り巻く状況について
第2回	7月31日（月）	全国的な動向、他市の状況、現地視察
第3回	8月25日（金）	今後の公民館のあり方についての検討（1回目） ・公民館の多様な活用について ・使用料、減免について
第4回	10月20日（金）	今後の公民館のあり方についての検討（2回目） ・社会教育事業の取組みについて ・職員体制等について
第5回	11月10日（金）	検討事項のまとめ（提言書の作成）
第6回	令和6年1月	委員会からの提言

●第1回会議の振り返り

【主な質問、回答】

Q. 公民館は建て替え、改修等が進められているが、現状や今後建て替えや改修を予定している館の数、進捗状況等の補足説明がほしい。Wi-Fiの設置状況は。

A. 現在、公民館は第2次整備計画に基づき整備しており、今年度の夏以降に4館整備し、その後は、昭和に建設された公民館を次の計画に入れ整備していく予定。最近改築した館には、地域団体の活動に使える部屋やスペースを設けている。Wi-Fiについては全館設置している。

Q. 公民館を活動拠点とすることが多いまちづくり協議会（以下「まち協」という。）ができてからは、公民館の利用者が増えているのではないかと感じている。まち協ができた頃までデータを遡れば、公民館利用者数の推移がもっと見えてくるかもしれない。

A. **第3回資料「佐賀市公民館の現況について」で説明**

Q. 使いたい時間の予約が取れない。空いている時間を使ってほしいというのはわかるが、使う側の要望というのもある。そういう部分を解消できる方法はあるのか。

A. 昨年4月に導入した予約システムを使えば、市内の全32公民館を一斉検索できる。距離を厭わない場合であれば、空いている公民館を利用させていただきたい。

Q. 公民館の稼働率を全体平均でみれば、「稼働率23%は低いな」という感想しか出てこない。すべての公民館では大変だろうが、サンプリング的にどこかの公民館に協力してもらい、部屋別、機能別の利用実態、利用者の属性を調査したらどうか。

A. **第3回資料「佐賀市公民館の現況について」で説明**

Q. 久留米市での視察の際、重層的支援体制整備事業に関する説明等は受けることができるのか。

A. 第2回にて、久留米市地域福祉課の職員より説明済み。

Q. 今の職員体制でいいのか、考えていかなければならないのではないかと思う。公民館の運営にあたる館長や主事の位置づけについて、問題があれば改善点を提案するなど踏み込んでいくべきだと考えている。

A. 第4回（10/20）で議論いただき、ご意見を頂戴したい。

Q. それぞれの公民館の一押し事業を挙げてもらいたい。

A. **第3回資料「佐賀市公民館の現況について」**で説明

Q. 公民館全体の協議会組織（公民館連絡会、館長会）はどういう組織で、定期的にどのようなことをしているのかをまとめ、資料として出してもらいたい。

A. **第3回資料 別紙4**に掲載

Q. 全国的に見れば、公民館の運営をまち協のような地域運営組織が受託しているところが増えている。その際、コミュニティセンター等の名称に変更し、地域運営組織がガバナンスする形で、そのなかに公民館活動をしっかり位置づける、そういうやり方もおそらく他地域を参考にすれば、1つの方法としてあり得るだろうと思う。公民館の運営を業務委託できるものなのか、事務局で資料をそろえてほしい。

A. 第2回にて、別紙1「全国的な動向」別紙2「他市の状況」をもとに説明済み

【その他の主な意見】

- 公民館自体は改修が進み利用しやすくなっているが、普段使わない市民が公民館の現状をどの程度理解しているのか、周知について、今後の検討課題のひとつになると思う。
- 地域づくりや地域住民のウェルビーイング、多様性等を考えていくと、これまでの利用基準で本当にいいのかを明確にしていく必要がある。防災のニーズも極めて高いので、もっと多様に利用できる仕組み等も必要だと考える。
- 社会教育士や防災士等、資格的なものがあるとコーディネートがしやすくなり、一挙に地域活動が活発化するのではないかと思う。コーディネート業務ができる人材をいかに増やしていくのかというのは、一つ大きなテーマであると思う。
- 農村 RMO の取組みは、校区を越えて連携し、過疎化、高齢化が著しい農村地域を支援する内容になっている。まち協同士の連携はもちろん、公民館同士の連携がこれからは必要になってくると思う。

- どの分野も人材不足が深刻であり、人材を確保する時に、地域で働きたい方と地域の施設等とのマッチングができればと思う。セカンドキャリアの方、子育て中の方、病気等で短時間しか働けない方などと上手く結びつけることができないか。地域で働いてほしい、働きたいというのを組み合わせる機能があればと思う。
- 地域住民のウェルビーイングや福利厚生につながるような、新しい利用者も増える可能性がある魅力的な提案があった時に、営利を理由に却下するのでは今までと何も変わらない。営利制限の線引きは是非とも検討すべき課題だと考える。
- 公民館32館全館でコミュニティカフェに取り組み、なんでもお悩み相談のような会話をしながらカフェを楽しむことができる、そういう場所があったらいい。
- 今後の新たな取組みのなかで、キーポイントとして見ているのは民間事業者と地域団体。いかに民間事業者を活用していくかで公民館の利用の幅が広がっていくと思う。公民館は小学校の近くにあるので、夏休みだけではなく平日の放課後など、民間事業者や営利団体を迎え入れた活用がキーポイントになると思う。
- 学校と公民館が近いというメリットを生かすのは大事。子どもが来ると保護者もついてきて利用率が上がり、公民館を使って心地よかったりするとリピートにつながると思う。
- 今までやっていなかったこと、今まで来なかった人たちをいかに取り込むかというのが大きな課題だと思っている。その際に民間の有償サービスはポイントになるかと思う。例えば、マルシェ等をして場代を稼ぐ（会議室の使用料）など。
- 公的な場所という安心感で子育てをし、子育てサークルに今も拘わっているので、受託や民間でとの話に驚いている。ニーズがあるからやること、こういうことをしてあげたいから組み込むこと、これからの公民館のあり方を考える時に、両方をバランスよく入れていっていただきたい。
- 現役世代で時間に融通が利く人のなかには、どのような方法で地域に入っていけばいいのかわからない人も多数いるのではないかと。活用できる時間も力も持っているのに、自分にもできることがあるとわかれば協力したい気持ちはあるのではないかと。今後を考えていくなかで、念頭に置いていただきたい。
- 転入者や比較的若い世代の人たちに、いかに公民館に関心持ってもらえるか、どうすれば公民館にアクセスしやすくなるか、そういったことも検討すべき内容に加えたい。やはり何らかの形で民間の活力を加えていかないと将来はないということが、委員の共通認識として持たれていることが分かった。

●第2回会議の振り返り

【主なご意見】

《地域コミュニティ活動の拠点としての役割》

- ・地域住民の興味関心に基づく、地域づくりの推進。
- ・エリア型とテーマ型（興味関心）の重ね合わせたデザイン。
- ・可能性型思考での新たなコミュニティデザイン、コミセンデザイン。
- ・地域住民の声を活かした事業を実施し、参加者の増加を図る。
- ・地域コミュニティと地域企業、行政が絡み合い、立場の垣根を越えた人の集う場、コミュニティ化ができれば。
- ・まちづくりはイベントではなく、人のつながりづくり。
- ・〇〇しなければならない（義務）＜〇〇したい（ニーズ）という思いが、まちを作り出すのかもしれない。
- ・「参加者・傍観者」ではなく「当事者」を増やしていくことの必要性がある。

《地域住民の交流、連携の推進》

- ・地域団体や機関との連携により、地域行事、又は地域全体を対象とした新たなイベントの実施。
- ・地域の方のふれあいの場（例：各公民館の桜見学会など、公民館に集まる習慣づけのために、ちょっとした催しを実施年に一週間程「桜週間」を設け、近隣の誰が来てもお茶くらい飲めるようにしておくなど）。
- ・自由に気軽に集える場があったらいい。

《子育て支援の充実》

- ・子育て支援（就園前の親子が集う場所、機会など。またその考え方）。
- ・コミュニティースクールの全校区導入と学校、PTA、地域の連携強化。
- ・サークルと学校の連携（地域人材をうまく活用できるしくみ作り）。
- ・ロビーでの学習会（子どもの居場所としての活用）。
- ・子供たちの長期休み勉強の場。
- ・公民館を利用した子供たちの教室・塾など。※子供向けのお金の教室など

《地域福祉、地域防災の拠点》

- ・「人ごと我ごと」して考えることができるような、様々なしなやかづくり。
- ・「できない」「困った」を出せるような場があること。
- ・重層的支援体制の重要性。これからの社会はこうした「掛け算」で支えあい、つながり

をもって生きていく地域が求められるのではないか。

- フードボックスの設置、ゆずりあいマーケットの開催（地域で集めたものを地域に還元するような仕組み「支え合いのおすそわけ」）。
- 地域の温かさ、誰も取り残さない気持ちと配慮。
- 防災食の試食会をきっかけとし、地域防災について考える。

《若い世代の事業への参加、利用の促進》

- 佐賀の大学生をもっとまきこむ。地域活性化に興味を持つ学生は多い。
- 若い世代の取り込みとバトンタッチ。
- 次世代を担う若い世代とのつながりづくり。
- 各公民館（小学校校区）での成人式の開催。

《民間企業の活用の促進》

- 企業主催のセミナー等、民間企業の利用促進。
- 異業種交流会などの勉強会やセミナー開催。
- マルシェ、移動販売、キッチンカーの場の提供。

《公民館事業、役割、職員体制等》

- 生涯教育の役割をしっかりと担ってほしい。
- 生涯学習事業は、地域における地域課題解決への関心を高め、地域の次世代人材育成という側面を強く持っている。市全体でみたとき、各地域の世代間循環や持続性をどのような方法で担保できるのか。
- 公民館に関わる「人の在り方」がより重要。
- 地域への支えすぎない支援。
- 公民館、まちづくり協議会、市行政の三者の関係性を問い直しながら議論を深めることが求められる。
- 6町1村とのタイアップ（交流）事業を実施する。
- ひとを知り、地域を知り、その人や地域の資質を活かし「〇〇したい」を引き出すコーディネート。
- 職員（館長を含む）の実態に合わせた勤務体制が必要。
- 使用料の料金体系（有料枠と料金）の見直し、使用料を徴収すべき。